JR東日本カップ 2004 第78回関東大学サッカーリーグ戦（後期）１部リーグ 第8節

KOMAZAWA×JUNTENDOU

駒澤大学３－０順天堂大学

開始早々の２分、こぼれ球をダイビングヘッドでゴールを決めた中嶋。このゴールで試合の流れを駒大に引き寄せた（撮影・野澤俊介）

ジンクス吹き飛ばし久々の後期白星!!

快勝するが課題も・・・

前期を首位で終え、首位筑波大との勝ち点差は「5」。もう自力優勝はない状態になってしまった駒大。負けることの出来ない後期リーグが幕を明けた。開幕戦に弱いというジンクスのある駒大だが、そんなことはどこ吹く風。まずは後期初戦をしっかりと白星で飾った。

開始早々２分、**鈴木亮**のドリブルからボールは**赤嶺**へ。**赤嶺**の放ったシュートをGKが弾き、こぼれ球を**中嶋**が頭で押し込んだ。開始早々の得点で波に乗る駒大。その後も果敢にシュートを打っていく。再び歓喜が訪れるのに時間はかからなかった。18分、中央にいた**小林亮**はペナルティーエリア手前にフリーでいた**赤嶺**へ浮き球を出す。**赤嶺**はそれを頭でふわりと入れた。相手DFの頭上を越え、ゴールに吸い込まれる形となった。それから間もない21分、**中後**のフリーキック。正確で見事なシュートはフリーでいた**鈴木亮**の頭にピタリと合い、そのままゴール。30分もたたないうちに３点を奪った駒大だが、次第に順大の攻撃も強まりスコアは動かず前半を終えた。

後半、「前半は良かったが後半入りが良くなかった。前半みたいなサッカーができてればもっと取れたと思う」（**太**）というように、シュートのチャンスはあるものの決まらない。50分、正確な**中後**のフリーキックに**中嶋**が合わせるがゴールにならず。その直後も**筑城**のパスが**鈴木亮**に渡るが、「後半疲れが出た」と語ったようにものにはできなかった。そして79分、公式戦初出場となる**笹岡**を、86分久々の公式戦となる**巻**を投入したが追加点は得ることができず試合終了。

初めての公式戦でスタメンとなった２年生**竹内**の活躍もあり、白星スタートとなった駒大だが、少しの気の緩みも許されない。「決める所で決めないと押し込まれる時間帯がある」（**太**）、「悪い時間帯の時に自分達の流れを引き戻せるように」（**中嶋**）と見つかった課題をどれだけ活かせるか優勝には選手の努力が大きくかかわってくるだろう。厳しさを増すこれからの試合頑張ってもらいたい。

（山本麻紗子）